

千葉県地域自立支援協議会
令和2年度第4回 運営事務局会議 議事要旨

日時： 令和2年11月19日（木）14時～15時50分

場所： 千葉市中央コミュニティセンター8階若潮会議室

参加者： 基幹相談センター花見川区 近藤氏・田口氏、稲毛区 染谷氏、若葉区 伊藤氏
緑区 菅野氏、美浜区 石野氏、中央区（事務局） 伊藤、竹嶋
地域生活支援拠点 中野学園 江澤氏、若葉泉の里 小川氏、ワーナーホーム 山岡氏
精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築連携会議 四方田氏
障害福祉サービス事業者 メープルリーフ 高柳氏、トータル介護サービスアイ 土屋氏
行政関係 若葉区高齢障害支援課 霊山氏、美浜区高齢障害支援課 児安氏
障害者自立支援課 企画班 新宅氏、給付班 石井氏
障害福祉サービス課 指導班 高山氏、地域支援班 窄口氏、荒井氏
精神保健福祉課 内山氏

0：資料

行政資料 ① 千葉県パラスポーツコンシェルジュ通信 Vo.1

② ちばしコンシェルジュチラシ

③ 千葉県パラスポーツ振興補助金

資料A 千葉県地域生活支援拠点システム運営ガイドライン

資料B 地域生活支援拠点等の機能を担う事業所の届出について

資料C 地域生活支援拠点（以下、「拠点」）と障害者基幹相談支援センター（以下、「基幹」）
の連携事例

資料D 障害者基幹相談支援センター月次報告（R2.10）

資料E 福祉行政報告例記入要領及び審査要領

特定相談支援事業アンケート（花見川）、障害児相談支援年齢別件（中央区）

学校アンケート（案）、事業所アンケート（案）

1：行政説明（オリパラ調整課：鈴木氏、近藤氏）

障害者スポーツ推進の説明。オリンピック・パラリンピック調整課は、障害を持った方々がスポーツを通じて地域と交流を深めていく推進活動を行っている。今後パラスポーツに関心のある当事者に、情報提供をして頂きたい。スポーツ教室開催の助成制度もあるので広く活用していただけるよう周知してほしい。

2：11月からの新しい地域生活支援拠点の説明（ワーナーホーム山岡氏）

11月から地域生活支援拠点事業を開始。フジエールでは主に精神障害のある方の短期入所の相談を行っている。病状が強い人は他へつなぐ仕組みもある。まずは緊急を1泊受ける場所として相談してほしい。基幹センターとの連携も大切にして運用していくのでご活用をお願いしたい。

3：各地区部会説明 各地域課題を中心に（各区障害者基幹相談支援センター管理者）

【花見川区】

（地域部会）福祉サービスにつながっていないケースの相談が多かった。高齢者の親御さんとご本人で生活している方からの親亡き後や今後の生活についての相談が来ている。今まで外とつながっていない方なので、サービスの利用はどうしたらいいか等の相談が多くあった。まずは「外の人に慣れる」ところからやってきた。

（相談事業所意見交換会）「相談員、事業所の数が足りない」、保護者・事業者それぞれが片端から探す状況が繰り返されているとの話が上がり、相談支援事業所向けアンケートを実施し、情報共有といずれはデータベース化に結び付けられれば、と考えている。

【稲毛区】

（地域部会）メンバーを変えた。あんしんケアセンターに加えて、児童分野で房総双葉園や特別支援学校のコーディネーターを加えた。幅広い年齢層への対応を話し合えるように考慮した。

居宅介護の事業所より、コロナの不安からキャンセルが増えた。また、過剰に反応される利用者さんから防護服を着てほしいなどの依頼があった。事業所としては、備品購入が増えているが、入手困難で金額も高くなっているとの声があった。感染対策の対策への補助金があるので、活用していくことを共有している。

ある事業所の職員が利用者さん宅に伺った際に、宗教のパンフレットを置いていくことがあった。契約書で営利、宗教活動は行わないとなっている。（再発防止のために）今回の部会で話題することにした。

（相談事業所意見交換会）10月から2回実施。来月は花見川区と合同で精神障害者の地域包括システムについての研修を予定。

【若葉区】

（地域部会）虐待ケースなどの事例検討を実施したいとの意見あり。基幹と拠点の違いが不明瞭という声があり、次回説明会を行う予定。強度行動障害の方の対応システムについて検討をした。

未受診の方を精神科病院に繋げるも、その先が繋がらないことが話題となった。治療のあり方、それぞれの役割など受診をする方に説明し、継続した加療を促す必要性について話し合われた。

（相談事業所意見交換会）8050問題・困窮者問題などの対応について話し合うとともに、サービスにつながっていないケースについて話題になる。

【緑区】

（地域部会）どうしたら地域から課題があげやすいのかを検討したので、具体的な課題の抽出には繋がっていない。高齢、障害、児童等のそれぞれの相談がうまくつながる仕組みづくりが必要に思う。ミニセミナー等の開催を検討し、1回開催した。

市民から「住んでいる所と相談場所が異なる時に、10月からは相談場所が変わるのか。継続的な支援は受けられないのか。」との苦情があった。基幹は地域ごとに担当区域が定まっており、原則としては担当区域に相談に行くこととなるが、他区においても、柔軟な対応を求められる場面があるかも知れない。

【美浜区】

(地域部会) 基幹とは何かの説明を行い、災害時の対応が話題になった。今回から社協の参加があり、地域ごとに課題は異なり、美浜区内でも高齢化率や孤独死問題等、連携して取り組んでいきたいとのことであった。ヘルパー事業所から、精神障害者の対応で悩んでいるが、相談支援専門員が入っていただけいないとの意見があり、相談支援体制づくりが必要だとわかった。

セルフプランが増えてきているため、継続して協議が必要ではないか。

(相談事業所意見交換会) 相談支援事業所が疲弊している。課題を丁寧にまとめていきたい。

【中央区】

(地域部会) 基幹を始める前にご挨拶に行ったところ、8050問題と医療的ケアと災害に関して話し合いの場が欲しいということ強く言われてきていた。そのため、中央区地域部会の下に8050部会、災害対策部会、医療的ケア部会を立ち上げている。それらで話し合われた内容を基に地区部会で話し合いを行っている。地区部会の中で、特に医療的ケアのある方の卒後の進路が困難になっているという課題があった。医療的ケアのある方の日中活動の場やヘルパー事業所を増やす取り組みをするための研修などを検討している。災害については、障害者自立支援課から情報ももらい、福祉避難所の運営について情報提供をもらいながら取り組んでいる。今後は千葉市全体で取り組んでもらえれば良いと考えている。8050支援のスキームづくりや、相談してもらえするためのチラシづくりを検討している。

(相談事業所意見交換会) 1回目は8050問題、2回目は依存症の勉強会を行った。

4：計画相談支援事業所の不足についての対処方法

- ・花見川区より相談支援事業所向けアンケートについて（花見川区基幹相談センター田口氏）

相談支援事業所を探してほしいとの新規依頼が2週間で10件問い合わせがあった。セルフプランもあるが、やはり相談支援をつけていくことが正当と考えている。

今まで市でもアンケートを取って、議論を積み上げてきたと思うがなかなか形にならなかったようだ。まずは花見川区内で情報を共有したいとの思いから相談支援事業所にアンケートをお願いすることにした。

相談員が容易に増えないなかで相談員の負担を軽減することにも着目し、(相談員に丸投げではなく)保護者との役割分担や身近な地域で相談が受けられるようになると、時間効率もよくなると想定している。そのために制度の勉強会やデータベース化を行えたらよいと思っている。

(石野氏) 千葉市全体に使えるようになったら良い

(伊藤) 中央区の障害児相談支援の資料、児童は小学校1年生の方をピークに増えていてグレーゾーンの方々は、サービス利用が減っていく傾向がある。

(新宅氏) 計画にインフォーマルサービスの位置付けているか。→ほとんどない。

(菅野氏) 3歳児検診が一つの壁。小児科の先生も早い療育を進める。子どもの支援は、親の支援が大事。計画を書くだけの相談支援ならいらぬが、障害があるかもしれないという子供の親へのフォローはとても大事な仕事、その部分をしっかりしないと大人になるまで響く。

(石井氏) 児童発達支援を使いたい人は、初のサービス利用になる。相談支援の質に関係なく、お店選びのようになっているのも実際。

5：災害・コロナ対策について

・千葉県障害福祉サービス事業者連絡協議会より

(高柳氏) コロナ騒動により、過剰な反応が利用者に見られる。利用のキャンセルがある。

(伊藤) 障害当事者がコロナになった際に、ヘルパーが来てくれるのかというご相談も多い。

コロナ用のベッド確保で補助金が出る制度が千葉県である。

(山岡氏) 柏市において、家族に陽生反応が出て介護を受けられなくなった障害者を支援する目的で、アパート（6部屋）を借り上げる事業を実施している。

(伊藤) 陽性者は基本的に医療機関で診ると聞いている。しかし、重度の障害があり、ケアがあると受入れができない様子。その方がコロナになった場合にどうするかが課題となっている。

中央区で電源がないと生命の危機がある人、人工呼吸器や吸引のある方の災害時の電源確保問題が取り上げられている。まずは災害時に電源が必要な人数を把握するためのアンケートを実施する予定。できれば千葉市全体で行えたらよいのではないかと思う。どのくらいの電力量が必要か、福祉避難所をどのように活用するか等について障害者自立支援課の協力のもとに話を進めている。

(石井氏) 医療費助成や日常生活用具の申請が3割くらい減っている。本来は必要なのに、サービスが何らかの影響で受けられていないのが心配である。

(土屋氏) 日常生活用具はヘルパー等の介護をする人が移動支援用具などを実際使っているところが多いのではないか。そうするとヘルパーが入らないために申請自体が減っているのではないか。

(石井氏) 日常生活給付はストマが大きな割合を占めているが、理由は不明だがこちらも減っている。

(石野氏) コロナ濃厚接触者に対して訪問した場合、対応について事業者間でバラついていないか。統一した見解で対応できると良い。研修や施策を施してほしい。

(高柳氏) 千葉県障害福祉サービス事業者連絡協議会でコロナ対策について研修をする予定。広く他の事業でも参加可能なようにしていきたい。

6：特別支援学校、事業所向けアンケートについて

・内容について、現在中央区で検討を行っているところであるが、アンケートを取る方針や目的について共有したい。

(染谷氏) 特別支援教育コーディネーターと福祉のとの連絡会で、毎回上がってくる課題として、以下の2点が上げられている。

①通学時の移動支援の必要性

本人の状態、家族の養育的能力の限界があり、通学時の移動支援を認めて欲しいと、これまでも話合っている。しかし具体化はしていない。

(高柳氏) どんな方までを対象にするのか。保護者の通勤時間・生活スタイルに合わせた、移動支援のニーズが多い。車で移動支援というと、白タク行為が問題になるのではないか。また、通学支援が必要な方はいるので、そのあたりのトリアージが必要。

(石井氏) 当事者会に向けてアンケートをした。それを情報提供したい。

②卒後の進路先

(伊藤) 人工呼吸器や胃ろう、吸引の必要な方が、卒後の進路としての日中活動の場所の確保が難しい。医療的ケアについてどのくらいの卒後の進路先の確保が必要かの人数の把握が必要なため、学校の先生向けに行うアンケートの作成に協力をお願いしたい。

7：拠点と基幹の連携事例

3 ケースの説明

(近藤氏) 虐待のケースがあり生命の危険があるため、親族との引き離しが必要となり、拠点に相談したところ、受け入れが難しいといわれた。

(江澤氏) 中野学園の拠点で確保している空床は、既存の施設の仕組みに対応できる方という制約がある。受け入れた利用者が、この先にどうしたら良いかと考えた時に「長期になるだろう」となった場合、本人にとって拠点利用はどうかと考える。既存の事業所において空所型で空床確保をしている立場からすると、夜間対応は職員 1 人であり、入所者との共同生活が可能でないと受入することが難しい。そもそも障害福祉サービスを使っているのであれば、そこを使えたらご本人にとっても良いと考える。そのため、拠点で確保している空床をいつでも活用できるわけではないことをご理解いただきたい。

(新宅氏) 緊急受け入れも大事だが、加齢児問題も含めて、体験利用なんかも例があれば良いと思う。

(染谷氏) 拠点の緊急とはどういったものか。どういったケースが受けられるのか。

(山岡氏) 精神でやろうとすると、喧嘩した、暴力をしまいそうだと、家には帰れないなどの相談が来る。本当に緊急で病状なら病院だよ、ということになる。障害に応じて、緊急の定義が異なる。走りながら積み上げて行くのが良いと思う。

(石野氏) 昨年度末のワーキングでも「慣れている支援者が受け入れる」というのが良いと思う。市は面的整備を進めているため、みんなでやるべき。

(江澤氏) 中野学園では、「単身者」「家族の疾病がある」というところで登録してやっている。そういう意味では、基幹でも掘り起こしをしっかりとし、事前にそうした登録をしてくれると良い。

(伊藤) 基幹と拠点については、別途相談できる場を作れると良い。

(近藤氏) 緊急対応をうたいながら利用できないのは課題。拠点の利用の相談をして対応が難しかったケースを記録に残す必要性があるのではないか。

(石野氏) 記録は残していく必要があると思う。

8：その他：日常生活自立支援事業について

(窄口氏) 前回運営事務局会議で話題に出たことから、地域福祉課に情報提供した。人員の拡充を図れるよう、財政局と協議中との回答を得た。

以上